

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 3月 26日

【評価実施概要】

事業所番号	0172901514		
法人名	有限会社 神居寿々蘭の里		
事業所名	グループホーム 喜		
所在地	旭川市高砂台8丁目3番10号 (電話) 0166-69-2511		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年3月25日	評価確定日	平成21年4月16日

【情報提供票より】 (21年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 9人 非常勤 9人 常勤換算	7.0人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000円	その他の経費(月額)	水道光熱費 14,000円 日用品費 2,700円 暖房費(10～4月) 8,000円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,400 円	

(4) 利用者の概要 (3月25日現在)

利用者人数	17 名	男性 5 名	女性 12 名
要介護1	6 名	要介護2	3 名
要介護3	2 名	要介護4	4 名
要介護5	1 名	要支援2	1 名
年齢	平均 83.3 歳	最低 74 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	旭川神居内科医院、高砂台病院、森山病院、森山メモリアル病院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、自然環境に恵まれた広い敷地に旭川市街を一望できる景観に優れた高台に位置し、利用者はリビングの窓から四季折々に変化する自然の色合いを感じながらゆったりと暮らしている。旅館であった建物を改造しているため、各所(リビング、居室、トイレ、お風呂など)が広々としており、余裕のある空間が随所に見られ、利用者も思い思いの場所でのんびりと過ごされている。管理者と職員の関係づくりの良さが感じられ、人間関係も良好で、親しみやすく温かい雰囲気が保たれている。また、管理者を始め職員は、利用者本位のケアの実践に向け懸命に努力を重ねられている様子がみられ、更なるサービスの向上に意欲を示されており今後の活動が期待される。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題への取り組みは、管理者及び職員の努力の成果もあり、理念の共有、評価の活用、市町村との連携など多くの項目で改善が見られている。運営推進会議を活かした取り組み、家族への報告、職員を育てる取り組み、介護計画の見直しなど、継続的課題として検討している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、職員会議等で意見討議を行ない、反省も踏まえ新たな気づきがあるなど率直な意見も多くあり、サービスの質の改善や向上の良い機会になっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議では、ホームの役割についての説明やサービス実施状況等の報告、近隣への災害時の協力依頼などの協議に努めている。前回の検討課題の改善報告などを通してサービス向上に活かしていくためにも、おおむね2ヵ月に1回の開催が望ましく、また、内容に応じて臨機応変にメンバーを募るなど、柔軟な体制をとり、ホームがより豊かに機能すべく会議の充実と定期開催実現を期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会の開催時に意見や要望を聞いたり、日頃から家族との交流を図り、気軽に話せる雰囲気作りに努めている。意見や要望が出た際には、迅速に話し合いがもたれケアに反映させている。懸案である家族への「お便り」を早期に作成し、家族とのコミュニケーションを十分にとるなど、家族と一体となった利用者のためのホーム作りを期待したい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、地域の祭事や行事に職員や利用者と共に積極的に参加している。ホーム祭りの際には、広く地域住民に呼び掛け多くの参加をいただいております。ホームと地域の方々が支え合う双方向の交流や関係性が深まっている。また、散歩時に声をかけていただくなど、自然な形で地域の方々と顔馴染みとなっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念はホームの見やすいところに掲示され、職員全員に浸透し、理念を実践するため日夜努力されている。運営者は、地域の中で暮らしていくという思いは十分あるものの、理念の中にその表現が盛り込まれていない。	○	地域との関係性を重視し、利用者の安心した暮らしを支えるための新しいホームの理念を検討中である。地域密着型サービスの根源となるホーム独自の理念の再考を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者及び職員は、毎朝、理念を唱和し意識づけを実践している。運営者及び管理者は、ミーティングや申し送りなどでも、常に理念に触れ確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の祭事や行事に職員や利用者と共に積極的に参加している。ホーム祭り際には、広く地域住民に呼び掛け多くの参加をいただいております、ホームと地域の方々を支え合う双方向の交流や関係性が深まっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義やねらいを職員全員で理解し、前回評価の改善課題は職員全員で話し合いがもたれ改善が図られている。本年度の自己評価は、管理者が大まかに作成した後、職員会議等で意見討議を行ない気づきやケアの振り返りが行なわれ作成されている。		

旭川市 グループホーム 喜

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、ホームの役割についての説明やサービス実施状況等の報告、近隣への災害時の協力依頼などの協議に努めているが、会議を構成するメンバーの日程調整の関係もあり、2ヵ月毎の会議開催の定着には至っていない。	○	会議設定に努力されているが、前回の検討課題の改善報告などを通してサービス向上に活かしていくためにも、おおむね2ヵ月に1回の開催が望ましく、また、内容に応じて臨機応変にメンバーを募るなど、柔軟な体制をとり、ホームがより豊かに機能すべく会議の充実と定期開催実現を期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の会議への出席や研修会に参加し、情報の共有や問題解決の協議化に努めている。市の担当者とは実務上の助言や運営について意見を仰ぐなど連携を図り、来訪時にはホームの実情を折に触れ伝えるなど、適時話し合いの機会を持ち協働関係を継続している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が訪問した際に日々の暮らしぶりや心身の状況を伝え、訪問できない家族には電話で伝えている。金銭納簿は毎月家族に明細を明らかにし、家族の了解をいただいている。請求書の送付の際に、施設長が利用者の心身状況、生活状況などを記載し家族に送付している。「ホーム便り」の作成を予定している。	○	家族との信頼や協力関係を築くためには、きめ細かいやりとりは不可欠であるため、ホーム内での暮らしぶりやエピソード、ホームの行事予定など、家族が知りたい点を考慮しながら、積極的な情報提供を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族との交流を図り、気軽に意見・要望を話せるような雰囲気作りに努めている。また、意見や要望が出た際には、迅速に対応方法を協議し改善に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者及び管理者は、利用者と馴染みの関係を継続することを大切にしており、職員の異動は最小限に抑えるよう努めている。2ユニット間での有効な介護サービスに繋がる事を考慮し、ユニット間異動が実施されている。異動や離職の際には、利用者への影響に配慮した支援を行なっている。また、家族への報告は文書にて報告されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	協力医療機関の医師による実践的な勉強会を行なうなど学びの機会を確保し、また職員の経験、力量に応じて外部研修に参加しているが、ホームとして計画的に職員を研修に参加させる体制はまだ十分とはいえない。	○	外部研修などから得る情報は地域密着型サービスの質の向上に役立ち、ホーム運営にも好結果をもたらすため、業務に支障のない計画的な外部の研修受講への取り組みを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者及び管理者は、管理者会議や関連会議に積極的に参加し、ほかのグループホーム関係者と接触しながら、情報収集や意見交換を行なっている。地域の行事などにほかのホームと協働しながら参加し、また運営推進会議に参加いただくなど、相互交流を通じてサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者や家族と十分に面談を行ない見学した後に入居となっている。利用者のペースで馴染むことができるよう配慮し、利用者や家族が安心して納得いただけるよう適切なサービス開始の調整を行なっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの経験や得意なことを見極め、活躍できる場面作りの支援が行なわれている。また、利用者から昔話や生活の知恵を教わったり、励まされたり労わっていただくなど、共に支え合う関係作りに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から生活歴や環境、家族構成など情報を収集するとともに、利用者の日々の言動や表情から思いや願いを汲み取り、利用者本位に検討し把握に努め共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者全員や家族の希望、要望を尊重し、職員全員で意見を出し合いながら介護計画を作成している。職員全員が毎日の記録を基にカンファレンス、モニタリングなどを行ない状況把握に係わり、利用者のニーズの把握に努め介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直し、また、利用者の状況や状態の変化などにより見直しを行ない、職員と話し合いながらケアに反映させているが、日々の記録は経過が主とした記載となっている。	○	利用者一人ひとりのその時点の現状にそった具体的な介護計画を作成し、その介護計画の目標に基づいた実践を行ない、その評価（結果、気づき、様子など）が日々の記録に記載されることが必要となり、また、実情に応じたケアにつなげるためにも、日々の記録方法の工夫や体制整備を期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望や家族の状況に応じて、受診の支援や買物、自宅への送迎など、ホームで行なえる多機能性を柔軟に活かした支援が行なわれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医での支援や協力医療機関による月1回の往診などの支援が行なわれている。また医療連携により看護師の健康管理も行なわれ、利用者が適切な医療支援が受けられるよう配慮されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等並びにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた対応は、入居時に利用者及び家族に説明し同意をいただいている。状況によっては医師、家族、職員を交えた話し合いが行なわれているが、指針は作成されていない。	○	利用者の重度化や終末期に向けた対応指針を整備するにあたり、家族や医療機関とも相談しながら、ホームとしてどう最大の支援を行なえるか、具体的方策について早い時期の検討を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りや羞恥心に配慮しながら日々のケアを行なっている。書類や個人記録などの管理に配慮されている。面会簿は、来訪者が順次記入する様式となっている。	○	対人サービスに携わるホームとして、情報の漏洩防止は責務であるため、面会簿の様式の工夫を期待したい。利用者の個人情報の使用について、利用者及び家族の同意書として明文化されることを期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての1日の基本的な流れや生活リズムへの配慮がされており、利用者の生活歴、体調やペースを大切にしたいその人らしい生活を送れるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けなど利用者の力量に応じて職員と一緒にこなしている。また、利用者の希望や季節の食材を採り入れた献立を立て、楽しみとなるように支援されている。しかし、職員は見守り、サポートに徹しており一緒に食事が取れる体制になっていない。	○	利用者と職員が同じ食卓を囲み、利用者と一緒に食事を楽しめる環境作りの検討を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴日が決まっており、午後に交代で入浴しているが、決められた日時以外でも希望があれば入浴でき、一人ひとりの状況に合わせた対応もされている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの喜びや得意事、できる事を見極め、励ましながら支援している。家事の手伝いなど生活歴を活かした役割やレクリエーションなどの楽しみごとの実施により、日常の暮らしに張り合いや喜びを見出せるように努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物、通院への付き添い、天候や利用者の希望に応じた外出支援を行なっている。また、ホームのテラスでの外気浴や庭園、花壇、畑に水やりや収穫時に一緒に出かけ、気分転換や戸外の空気に触れるなど五感刺激の機会としている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が鍵をかけない安全な暮らしについて理解し、職員は利用者の行動を見守りながら、鍵をかけない配慮をしている。		

旭川市 グループホーム 喜

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練が実施され、救急救命の講習や夜間想定避難訓練も行なわれているが、利用者が参加しての防災訓練は行なわれていない。災害発生時に協力をいただけるよう、運営推進会議を通し働きかけが行なわれている。	○	利用者の安全をより確実なものとする為にも、利用者参加の避難訓練が望まれる。日頃より地域住民との連携を図り、参加していただける体制作りを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事量や水分摂取量は記録され、食事カロリーや水分摂取が最適になるよう配慮している。職員は調理方法や盛り付けを工夫し、利用者の食が進むよう努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームのリビングからは四季折々の旭川市街を楽しめ、利用者や訪問者に和やかな空間となっている。また、トイレやお風呂など各空間も広くゆったりとしている。温度・湿度の配慮もされており、気になる臭いもなく、音・光等も適宜調節されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、11帖～16帖の広さがあり、ゆったりとした空間で暮らしが営まれている。利用者が使い慣れた馴染みの家具や装飾品、生活用品を持ち込み家庭の延長的雰囲気の中、居心地良く過ごせる空間作りがされている。		

※ は、重点項目。